

第 56 回インテリア設計士資格検定

<1 級学科試験・論文課題>

日本人の生活において、家庭内の日常災害にはどのようなものがあるか列挙し、それぞれの安全対策について意見を述べなさい。

1. 試験時間：1 時間 30 分（午前 10 時 30 分～正午）
2. 記入用紙：配布された指定の論文用紙に記入する。文字数は 800 字以上 1000 字未満とする。
3. 注意事項
 - (1) 論文用紙に、受験票に記載の協会名(都道府県名のみ)と受験番号を必ず記入してください。
 - (2) 試験監督員の「開始」の合図に従って書き始めてください。
 - (3) 質問があるときは、黙って手をあげてください。ただし、原則として質問にはお答えできません。
 - (4) 試験終了時間前に解答ができあがった場合は、試験監督員の指示に従ってください。
 - (5) 「終了」の合図と同時に終了し、論文用紙を監督員の指示に従って提出し、速やかに退室してください。
 - (6) 参考資料、原稿、コピー等の持ち込みはできません。
 - (7) 課題用紙(この用紙)は持って帰ってください。
 - (8) 手洗いに立ちたいときは黙って手をあげ試験監督員の指示に従ってください。ただし、原則として学科試験中のトイレ休憩は認められません。
 - (9) 携帯電話の電源は、必ず切っておいてください。

第56回インテリア設計士資格検定試験

<1級論文解答例>

<課題> 日本人の生活において、家庭内の日常災害にはどのようなものがあるか列挙し、それぞれの安全対策について意見を述べなさい。
※文字数は800字以上1000字以内とする。

1/3

日常災害には大きく、落下型、接触型、危険物型の3つの事故がある。まず、落下型事故には、窓やベランダなどの高い所から落ちる「墜落」、階段やその周辺から落ちる「転落」、さらに、廊下や床など水平面で転ぶ転倒、それに高い所から落ちてくる「落下物による打撲」がある。

100

次いで、接触型事故には、ドア、壁などへの「ぶつかり」、同様にドアや窓などに「はさまれ」、狭い廊下の壁や荒い仕上げの壁などの「こすり」、あるいはガラスなどの鋭利物による障害がある。さらに危険物型には火傷、感電、中毒、酸欠、溺水が挙げられる。ここでは特に重要と思われる、少子高齢時

200

代の課題として、階段での転落事故の安全対

300

策について詳しく取り上げたい。

1. 階段勾配：建築基準法によれば踏面寸法

15 cm以上、蹴上げ寸法23 cm以下と定められ

ている。しかし、これでは56度であって急

勾配過ぎ、足を踏み外しやすい。登りやす

400

い勾配は30～35度であるが、安全性の点で

は少なくとも45度以下としたい。

2. 階段仕上：滑りやすい材料や塗装は避け

る。また段端にはノンスリップなどの滑り

止めを付けるなどの工夫が必要である。

500

3. 手摺設置：万が一、足を踏み外した場合

には、手摺などがあれば、墜落を防ぐこと

ができる。手摺は高齢者にとっても持ちやす

い形状や寸法や位置を確保する。高さは

75～85 cmが適当である。

600

4. 照明：踏面部分を明るく照らす照明の設

置は必ず必要である。天井照明の場合は人

の影ができないよう2か所以上設置し、また、足元を明るくするフットライトを複数灯設置するとより安全である。点滅スイッチは必ず階段の上下双方に三路スイッチを設けておく。

700

5. 階段形式：階段には直通階段のほか、折り返し階段、折れ曲がり階段、螺旋階段などがあり、階段の型式も安全性に大きく関与する。踊り場などがあれば、落差は少なくななり、高齢者にとって安全性は高い。

800

6. フェイルセーフ：万が一の安全を考慮して、階段下の床仕上げ材は、落下時の衝撃力を和らげるように、軟らかく弾力性のあ

900

る仕上などにしておく配慮も必要である。

1000